

新コーナー発足

これから来年（1997年）夏の IAU 総会に向けて関連記事を連載します。どうぞよろしく。

## 夢のような二週間：IAU 京都総会

来年の8月17日から30日まで、国立京都国際会館で開かれる第23回国際天文学連合総会は、私たち日本の天文学者にとっても、そして数十カ国からやってくる千人を超えるであろう天文学者にとっても、夢のような二週間となることは間違いありません。それは、世界の天文学における最大のイベントであるばかりでなく、参加者が、いわば頭のとっぺんから足の先まで、エキサイティングな天文学にたっぷり浸れる二週間でもあるからです。

### ●ハーグ方式

来年の IAU 京都総会は、前回 1994 年のハーグ総会から始まった新しいやり方で行われます。それは、二週間の総会期間中に、同じ場所で6つの IAU シンポジウムと多数のジョイントディスカッションを開くという、サイエンス面の魅力をぐっと濃縮したものです。（京都総会の場合は、アジアでの開催という特殊事情もあり、シンポジウムの一つは近隣の国で開かれることが検討されています。）では、ハーグ総会とはどんな雰囲気だったのでしょうか。

ハーグ総会のプログラムを手にとると2年前の記憶がよみがえります。感銘深かった天文学・物理学のビッグネームによる招待講演、論文でしか知らなかった研究者と顔をつきあわせてのディスカッション、友人と再会して楽しく語り合ったことや世界の同業者とテーブルを囲んだパーティー、ホットな情報を載せて毎日発行された新聞 Siderial Times など。中でも一番印象深く思い出すのは、各国の研究者がホットなディスカッションを交わしながら新しいフロンティアを切り開いてゆく時間と場所を共有し、そこに参加したよろこびです。

### ●シンポジウムとジョイントディスカッション

ハーグ総会では、表1に示すように6つの IAU シ

ンポジウムと20のジョイントディスカッションが開かれました。シンポジウムは正味4日をかけて関連するトピックを広くカバーしながら大きくまとめるものが主で、前半の週と後半の週に3つずつ並行して開かれます。ジョイントディスカッションは、まさに今問題になっているトピックに焦点をあて、まる1日かけて突っ込んだディスカッションをするものです。私の印象では、ジョイントディスカッションの方がよりインフォーマルで、議論も白熱していたように思います。みなさんも表1を見れば、参加したくなるようなテーマがすぐにくっつきつけられることでしょう。ハーグでは、真ん中の日曜日はさんだ前後各3日は、シンポジウムやジョイントディスカッションが合計6つパラレルに進行したので、むしろどれをあきらめるか決めるのに苦労したくらいです。

現在 IAU 事務局では、提案されているシンポジウムやジョイントディスカッションの中から京都で開くものを選ぶ作業を進めており、6月の会議で決定する運びになっています。京都総会で、どのようなテーマが議論されるのか楽しみです。

### ●ポスターセッション

もう一つ、忘れてならないのがポスターセッションです。IAU ハーグ総会では、シンポジウムやジョイントディスカッションなどに1000を超すポスターが申し込まれ、前半と後半に分かれてそれぞれ1週間ずつ展示されました。毎日午前と午後を設定された30分のブレイクと2時間の昼休み、そして夕方などに、ポスターを前にディスカッションする姿が見られました。ハーグの会場はポスターエリアがややわかりにくいという難点はあったものの、コピー片手の著名な学者をつかまえては、自分のポスターの前に「連行」する猛者（日本人）もありました。

特に若手研究者のみなさんには、IAU 京都総会が、世界へ躍り出る登竜門となることでしょう。ポスターを見て話しかけてきた学者の名札を見てどっきりしたり、議論するうちに意気投合して京都見物に案内する約束をしたりと、ポスター会場は出会いに満



表1：1994年のIAUハーグ総会の際にもたれた招待講演，シンポジウム，ジョイントディスカッション。

●招待講演	6. Sun and Heliosphere-Challenges for Solar-Terrestrial Physics, Magneto- and Hydro-dynamics
Yasuo Tanaka (ISAS, Japan)	7. History of Astronomy
Recent Advances in X-ray Astronomy	8. Time Scales: State of Art
Jean O. Dickey (JPL, USA)	9. Women in Astronomy
Earth Rotation Variation from Hours to Centuries	10. Extragalactic Planetary Nebulae
Carlo Rubbia (CERN, Switzerland)	11. Stellar and Interstellar Lithium and Primordial Nucleosynthesis
The High Energy Frontier	12. Accuracy of the HR Diagram and Related Parameters
● IAU シンポジウム	13. Recent Advances in Convection Theory and Modeling
164. Stellar Populations	14. Towards the Establishment of the Astronomical Standards
165. Compact Stars in Binaries	15. Statistical Evaluation of Astronomical Time Series
166. Astronomical and Astrophysical Objectives of Sub-Milliarcsecond Optical Astrometry	16. Astrophysical Applications of Powerful New Atomic Databases
167. New Developments in Array Technology and Applications	17. Dust around Young Stars: How related to Solar System Dust?
168. Examining the Big Bang and Diffuse Background Radiations	18. Solar System Radar Observations
169. Unsolved Problems of the Milky Way	19. Nutation
●ジョイントディスカッション	20. The Status of Archiving Astronomical Data
1. Gas Disks in Galaxies	
2. Origin and Detection of Planetary Systems	
3. Helio- and Asteroseismology	
4. Current Developments in Astronomy Education	
5. Activity in the Central Part of Galaxies	

ちています。あとはあなたの度胸（とポスターの内容）しだいなのです。

### ●天文学の「うつわ」

IAU（国際天文学連合）は、発言する世界の天文学研究者の団体としての、もう一つの顔をもっています。扱う内容には、研究のための国際協力の推進や国際標準の約束（時刻系や太陽系から銀河系中心までの距離など）、そして天文観測環境の保全なども含まれます。私たちが研究を進める上でなくてはならない「うつわ」を、IAUは提供しているのです。

日本の天文学は、この「うつわ」のおかげで世界の天文学の中に確かな位置を占めるようになりました。この「うつわ」を維持、発展させるために、日本の諸先輩も力をつくしてこられました。私たちの責任はますます大きくなってゆきます。総会そのものはもちろん、総会期間中に開かれるさまざまなコミッション（分科会）の会議にもどんどん足を運んでみてはどうでしょうか。世界の研究者が研究ばかりでなくその「うつわ」作りにも力を尽くしてい

る姿を、見るができるでしょう。

IAU 京都総会は、まさに私たちが世界に提供する「うつわ」です。京都に集う世界の天文学者に総会の機能を提供し、その二週間を楽しんでもらうために、準備が着々と進められています。みなさんにもさまざまな局面でご協力をお願いいたします。来年の8月には、力を合わせて作り上げたその「うつわ」の中で、世界の天文学者と一緒に夢のような二週間をエンジョイしようではありませんか！

長谷川哲夫（東大理）

### IAU97 京都総会への寄付のお願い

第23回国際天文学連合総会（IAU97 京都総会）の開催には多額の経費が必要となります。経費を切り詰めることは当然ですが、近隣のアジア地域をはじめとする諸国から多くの参加者を得て、この総会を機会として国際交流を発展させる見地から、日本が応分の旅費、滞在費の負担をすることが期待されています。事務局では産業界や助成財団に協力を訴えています。国内の



IAU 会員および日本天文学会の会員の皆様に、主催者側の自助努力の一環として、一口千円の寄付を呼びかけます。産業界からの寄付金と併せて、総額4千万円を集めたいと考えております。額の多少にかかわらず、積極的な協力を期待しております。

寄付の方法は、郵便振替にて行えるよう、口座開設等の準備を進めております。詳細がわかり次第、月報にてご案内いたします。

なお、1万円を超す寄付金については、寄付先が「特定公益増進法人」として認められている場合にかぎり免税措置が受けられます。事務局では免税措置の受けられる寄付金受け入れ窓口の開設を学術振興会に依頼中です。この措置の適用をご希望の方は、下記の事務局まで、寄付口数を明記して連絡願います。折り返し、手続きなどを記した募金趣意書をお送りいたします。

〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台  
IAU97 京都総会事務局

## 月報だより

### 人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など)
2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地
3. 専門分野
4. 職務内容・担当科目
5. (1) 着任時期, (2) 任期
6. 応募資格
7. 提出書類
8. 応募締切・受付期間
9. (1) 提出先, (2) 問合せ先
10. 応募上の注意
11. その他 (待遇など)

### 美星天文台研究員

1. 研究員1名
2. (1) 美星天文台  
(2) 岡山県美星町
4. 公共天文台全般に渡る業務
5. (1) 1996年9月1日
6. (1) 1996年4月1日現在で、満28才以下。  
(2) 大学卒業程度の天文学の素養を持ち、一般市民相手の星空案内・アマチュアの支援指導育成ができ、観測的研究・教育・普及の全ての分野に意欲があること。更に、天文台観測環境整備のための機械工作、電子回路の設計製作、ある程度のコンピュータープログラミングも行う意欲があること。  
(3) (2) と同等以上と認められる者。
7. 募集要項に記載 (ご請求ください)
8. 1996年6月28日必着
9. (1) 美星町役場創星課  
〒714-14 岡山県小田郡美星町三山  
電話：0866-87-3111  
FAX：0866-87-2529  
(2) 美星天文台 人事公募係  
〒714-14 岡山県小田郡美星町大倉 1723-70

電話：0866-87-4222  
FAX：0866-87-4224  
e-mail: koubo@bao.go.jp

10. 選考方法
  - 1 次選考 書類審査
  - 2 次選考 面接及び適正検査 (7月中旬に通知)
11. 待遇 美星町職員一般行政職 (地方公務員)

### 東北大学理学研究科天文学専攻教員

1. 助教授1名
2. (1) 東北大学大学院理学研究科 天文学専攻  
(2) 仙台市
3. 天文学
4. 東北大学大学院理学科および理学部における研究と教育 (大学院理学研究科天文学専攻および理学部宇宙地球物理学科を担当)。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. (1) 履歴書, (2) これまでの研究の概要と今後の抱負,  
(3) 論文リスト, (4) 主要論文別刷り (5編以内)
8. 1996年6月30日(金)
9. (1), (2) 〒980-77 仙台市青葉区  
東北大学理学部天文学教室 主任 土佐 誠  
電話：022-217-6501  
FAX：022-217-6513  
10. 応募書類は簡易書留で送付のこと

### 理化学研究所計算科学研究室研究員

1. 研究員1名
2. (1) 理化学研究所, 計算科学研究室  
(2) 351-01 埼玉県和光市広沢 2-1
3. 計算科学
4. 計算科学研究室は1995年度から新設された研究室である。理化学研究所に導入済みのベクトルパラレル型スーパーコンピュータ富士通 VPP-500 を使って、大規模シミュレーションを実施するとともに、大規模